



笑いの時間を共有する

上方落語家 桂七福さんの演芸会

三野支所文化財棟で、10月8日、桂七福さんのみよし演芸会が行われました。桂七福さんは東みよし町出身の上方落語家で、この日は「稚奉公の子どもと旦那が金を猫から守るため愉快に策を巡らせる『猫と金魚』と、スリの男が貧しい子どもを助けようとして騒動ひきおこす『一文笛』の2席を披露しました。「落語とはだれも傷つけない笑いである」と桂さんが語ったとおり、笑い声が笑いを呼ぶあたたかな空気が会場全体に広がりました。途中、地元のオカリナクラブ和奏による演奏もあり、優しい音色で観客を魅了しました。



総合優勝した網本さん

祖谷の情景を歌声に乗せて

第15回祖谷の粉ひき節日本一大会



祖谷の粉ひき部門で優勝した北岡さん

10月2日、祖谷粉ひき節の歌声を競う「第15回祖谷の粉ひき節日本一大会」が東祖谷歴史民俗資料館伝習ホールで行われました。県内外から計33名が参加し、祖谷の粉ひき節部門では参加者18名のうち山城町の北岡晴行さんが優勝しました。東祖谷の粉ひき節部門では参加者15名のうち徳島市の網本寅一さんが優勝し、網本さんが総合優勝を果たしました。また、ゲストとして津軽三味線奏者の福居一大さんが登場し、ダイナミックな生演奏で会場を酔わせました。



おもしろいことや耳より情報など、身近なまちのニュースがありましたらぜひお教えください。秘書人事課 ☎ 72-7646



氏神様へ感謝をこめて舞を奉納

武大神社 秋季大祭にて稚児舞

10月18日に三野町武大神社にて秋季大祭が行われ、3年ぶりに収穫の感謝を捧げる稚児舞が奉納されました。例年は小学校3年生のみで行う稚児舞ですが、昨年開催されず参加できなかった小学校4年生も参加しました。神社で舞を奉納した後、御旅所へ氏子とともに神輿や子どもたちを乗せた屋台が列をなして歩き、町に太鼓の音を響かせました。

基本は8人で行う稚児舞も、子どもたちの減少から今年は5人での奉納となりましたが、御旅所には芝生小学校から児童が見学につけ、子どもたちの明るい声が秋空に響きました。

100歳おめでとございます



土橋 美千代さん

(山城町信正)

10月18日、山城町信正の土橋美千代さんが満100歳を迎えられました。土橋さんは、山城町で9人兄弟の5女として生まれ、22歳頃に結婚されました。たばこ栽培を営みながら、2男1女を育てられました。施設に入所されるまでは、自分のことは自分でできていたそうです。日記を毎日書き、新聞も欠かさず読んでいました。入所されてからも、塗り絵や好きな音楽を楽しんでいるそうです。これからもお元気で過ごしてください。



メダルを手に帰還

北海道マラソン 準優勝の報告

8月28日に開催された北海道マラソン2022に出場した高井俊治選手(D2C所属)が市長を表敬訪問されました。高井選手は2時間35分19秒の記録で視覚障害男子の部で準優勝しました。

高井選手の障害クラスはパラリンピックでの種目が無いものの、2年後のパリ大会でのトラック種目出場も視野にトレーニングを日々重ねています。また、徳島駅伝三好市選手としても活躍しており、「今後は、自身のレベルアップと後進育成にも力を入れていきたい」と抱負を述べられました。



五穀豊穡を願う獅子舞

勇壮に八幡獅子太鼓

秋晴れの10月1日、西祖谷重末八幡神社で「八幡獅子太鼓」が奉納されました。境内からお神輿を担ぎ、御旅所では、神事に続き子どもたちが叩く太鼓や鉦に合わせ、獅子が古式ゆかしい舞いを披露しました。

6月から週2回の練習を積み重ねこの日に備えてきた子どもたち。「練習は大変だったけど楽しい」と笑顔を見せてくれました。

八幡獅子太鼓保存会の杉本会長は「担い手は減っても、先祖から継いだこの獅子舞は続けたい」と話しました。

一糸乱れぬ技を披露 徳善からくり襖絵



西祖谷徳善の阿弥陀堂横広場で10月16日、三好市指定有形民俗文化財の「徳善からくり襖絵」が開催されました。

襖からくりは、舞台上に設置された八合霧や老松などが描かれた9枚の襖を巧みに操作し、縦に斜めに回転しながら絵柄を入れ替えていくもので、息の合った伝統の技に、集まった100人ほどの観客から拍手が沸き起こっていました。

公演は4部に分かれて行われ、三好市出身の木偶舎 勘六さんによる三番叟まわしや地元保存会による粉ひき節踊り、祖谷甚句踊りなども披露されました。



北海道歌旅座コンサート

艶のある歌声に聞き惚れて

10月22日、三好市民大学講座が開催され、北海道歌旅座による「ザ・コンサート2022」が行われました。

「いちご白書をもう一度」から始まり、「イヨマンテの夜」や「テネシーワルツ」などフォークソングや懐かしい昭和の流行歌などが次々と演奏されました。また、バイオリンの独奏や北海道を舞台にしたオリジナルソングも披露され、ボーカルの吉田淳子さんの囁くような声や迫力のある強い歌声など変幻自在に表現される歌に、約250人の観客は酔い酔いで、大きな拍手を送っていました。

